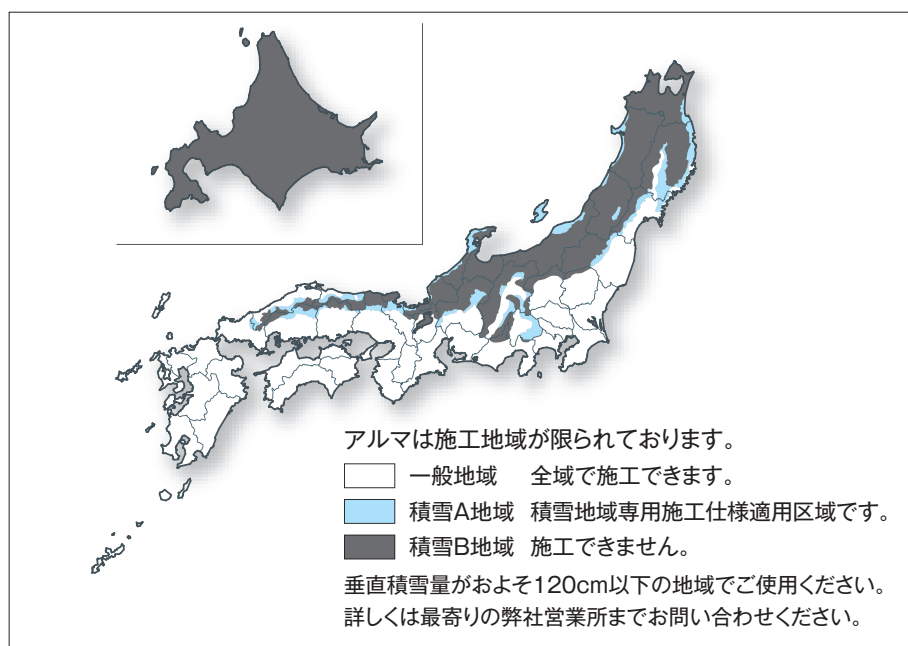


9 アルマの重ね葺き工法

9- 1	安全にご使用いただくために
9- 2	保管上の注意事項
9- 3	本体施工上の注意事項
9- 4	施工前の確認事項
9- 5	製品仕様
9- 6	下葺材の施工
9- 7	本体施工時のポイント
9- 8	納まり詳細図 アルマ 重ね葺き工法 直葺き施工



9 アルマの重ね葺き工法

9-1 安全にご使用いただくために

アルマを安全にご使用いただくため、施工前に必ずお読みいただき、正しくご使用ください。
なお、この商品は専門施工が必要ですので、工事は必ず屋根専門工事業者様にご依頼ください。
また、アルマを屋根材以外の用途には使用しないでください。
アルマは、住宅などの屋根材として充分満足していただける品質を備えておりますが、耐久性や耐候性などの諸機能は、正しい施工（標準施工）を行うことによってはじめて発揮されるものです。
よって、必ず正しい施工（標準施工）を実施していただくようお願いします。



死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 落下事故の危険性がありますので、強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。
- 高所作業は関係法規に従って行ってください。
- 金属部材は電線などに触れないように取り扱い、施工してください。感電のおそれがあります。
- 高所や基準を超える積雪のある地域など、アルマの使用可能地域外での使用は製品不具合や施工上の危険を招くおそれがありますので避けてください。
- 雨や雪、露などで屋根面が濡れている場合は施工しないでください。滑り落ちる可能性があります。
- 屋根施工後は役物の上に乘らないでください。また、屋根材の上の歩行は極力控え、やむを得ず歩行する際は慎重な歩行を心掛けてください。
- 屋根面にはむやみに端材、工具など、物を置かないでください。滑り落ち、怪我や器物破損のおそれがあります。
- 固定していない屋根材、役物などの上には絶対に乗らないでください。滑り落ちる可能性があります。



使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損傷の発生が想定されます。

- 建築基準法、消防法、建築用途、施工地域などを確認して使用してください。
- 動きやすい服装、滑りにくい履物など、作業に適したものを着用してください。
- 作業の際は、ヘルメット、滑り止め付き手袋や保護めがねなどの適切な保護具を着用してください。
- 工事期間中、毎日の作業終了後には、屋根面を清掃してください。
- 電動工具などをご使用の際は各工具の取扱説明書に従って正しくご使用ください。また、その配線などは漏電しないものを使用してください。
- 梱包部材、残材などは産業廃棄物として処分してください。
- 屋根面に足場を組む場合は必ず養生板を敷いてください。
- はしごをかける場合は、当て木を使い、かつ滑らないように固定してください。また、作業は必ず2人で行ってください。
- 釘打ちの振動でアルマが滑り落ちるおそれがありますので、十分注意してください。
- 作業中、足場から屋根面へ飛び下りたり、物を落としたりしないでください。破損などが生じ、雨漏りなど不具合の原因となります。

9-2 保管上の注意事項

- 倉庫、現場での保管は必ずパレットに載せて保管してください。
- 倉庫での保管は、パレット（64ケース／パレット）は2段以下としてください。
- 現場での保管は、高さ1m以下で保管してください。
- 本体やセルフシーラントは、濡れると接着しなくなるおそれがありますので、雨がかからない場所に保管するか、養生シートで覆ってください。
- 梱包したままで折り曲げないでください。本体が割れるおそれがあります。また、棟などにまたいで置いたままにしないでください。

9 アルマの重ね葺き工法

9-3 本体施工上の注意事項

- 施工前、製品本体ウラ面(足先側)にセルフシーラントが確実に付いていることをご確認ください。
セルフシーラントが付いていないと突風などによりアルマ本体が飛散するおそれがあります。

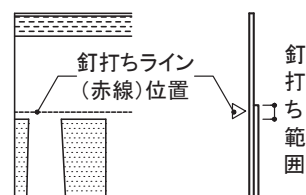
なお、セルフシーラントが接着能力を発揮するまでの期間は季節により異なります。

アルマ用シングルセメント(品番:SAC1500)を必ず併用して施工を行ってください。

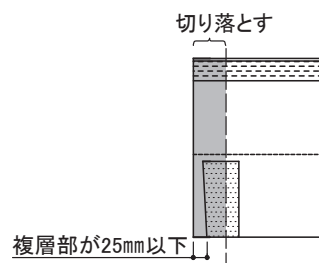
また、10寸を超える急勾配屋根ではアルマ本体の自重がかかりにくくなり、セルフシーラントが十分に接着しない場合がございます。施工の際はアルマ用シングルセメント(SAC1000)を所定位置に塗布(必要に応じて増し打ち)のうえ、十分に圧着してください。

- アルマ施工の際、釘打ちは必ず釘打ちライン(赤線)を目安とした複層部分に行ってください。

製品上部カットなどで、やむを得ず釘打ちライン以外の場所に釘打ちする際は、製品の複層部分に釘打ちしてください。釘頭があらわしになる部分はシングルセメント処理してください。



- アルマ製品複層部の幅が25mm以下となる場合、当該部分は経年で剥がれやすくなるため、本体施工時にあらかじめ当該部分を含む製品端部を切り落として施工してください。製品本体には製造上、最初から端部において複層部分の幅が非常に小さいものが含まれている場合がございます。ご了承願います。



- アルマ本体割り付け上、小幅材が出る場合は幅を150mm以上とってください。なお、製品が自着するまでのバタつきを考慮し、幅300mm以上とすることをおすすめします。
- 夏場、屋根面が60℃を超える環境下では施工後の屋根材面の歩行は極力控えてください。アルマ表面が踏みズレをおこすおそれがあります。やむを得ず歩行する際は歩み板を敷くなどの措置を講じ、踏みズレには十分留意してください。
- 冬場、外気温が5℃以下となる場合は、原則アルマの施工を控えてください。製品のうねり(波うち)、ひび割れの原因となります。やむを得ず低温時に施工する際は、日なたなどでアルマを温め、製品が屋根面に馴染むようになってから施工してください。
- 開梱後、アルマ本体裏面のセルフシーラントを下にした状態での仮置きは避けてください。セルフシーラントが熱により屋根面に溶着するおそれがあります。
- 雨天後の施工は、事前に屋根下地の状態を確認し、濡れている場合は施工しないでください。施工する場合は、必ず十分に乾燥した状態で施工を行ってください。

アルマの製品特性について

- アルマは原材料としてアスファルトを使用しているため、夏期は柔らかく、冬期は硬くなる性質があります。特に冬期施工時には屋根形状に馴染むまでに若干時間がかかる場合がございますので、あらかじめご了承願います。

●アルマの石落ちについて

本製品では製品表面の粒状石が落下する現象が見られますが、これはアスファルトシングル特有の現象です。粒状石の落下は製品異常ではございません。また、粒状石は天然石に着色されたものであり、有害物質は含んでおりません。

9 アルマの重ね葺き工法

9-4 施工前の確認事項

重要 必ずご確認ください！

既存屋根材がセメント系新生瓦の場合、石綿(アスベスト)を含有しているかどうかをご確認ください。既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。石綿(アスベスト)が含まれている屋根材の場合、専用の施工方法にて下葺材の施工を行ってください。

▼既存屋根材がセメント系新生瓦で石綿(アスベスト)を含む場合

⇒「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」による下葺材の施工

〔適用下葺材〕 アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)または改質アスファルトルーフィング
(片面粘着層のないものに限る)

▼既存屋根材がセメント系新生瓦で石綿(アスベスト)を含まない場合

⇒片面粘着層付下葺材を使用、もしくは石綿含有時の専用工法のいずれか

〔適用下葺材〕 厚さ1.0mm以上の片面粘着層付き改質アスファルトルーフィングまたは
「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」適用下葺材

▼既存屋根材がアスファルトシングルの場合

⇒片面粘着層付下葺材を使用、もしくは石綿含有時の専用工法のいずれか

※片面粘着層付下葺材を施工する際、既存屋根材の表面状態により、十分な接着が得られない場合があるため、必要に応じて板金、釘などを用いて下葺材を仮留めしてください。

〔適用下葺材〕 厚さ1.0mm以上の片面粘着層付き改質アスファルトルーフィングまたは
「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」適用下葺材

1) 設計施工基準

- 建物の高さは16m以下です。
- 既存垂木間隔が500mm以下であることを確認してください。
- 既存屋根材(セメント系新生瓦、アスファルトシングル)の厚みは6mm以下です。
- 既存野地板は厚みが12mm以上の普通合板同等以上の木製野地板です。
- 屋根勾配は原則3.5寸以上、27.5寸(約70度)以下です。一般地域で緩勾配(2.5寸以上3.5寸未満)の場合は専用の施工仕様に従ってください。
- 一般地域の流れ長さは20m以下です。緩勾配(2.5寸以上3.5寸未満)の場合は、流れ長さ10m以下です。
- 多雪地域(垂直積雪量がおおよそ80cmを超える地域)においては、勾配は3.5寸以上(27.5寸以下)、流れ長さは下表の通りとし、多雪地域専用の施工仕様に従ってください。
- 基準風速が38m/s以上の強風地域では専用の施工方法(P222)にて行ってください。
- 小屋裏結露防止のため、住宅金融支援機構仕様書に準じた小屋裏換気を必ず設けてください。

勾配と最大流れ長さ、下葺材の施工基準表

勾配			緩勾配		3.5/10	4.0/10	4.5/10	5寸以上
			2.5/10	3.0/10				
一般地域	最大流れ長さ		10m以下		20m以下			
	既存 屋根	石綿なし	重ね葺き仕様					
		石綿あり	『あんしん』屋根カバー工法(緩勾配)		『あんしん』屋根カバー工法(一般)			
多雪地域	最大流れ長さ		施工不可		10m以下	15m以下		20m以下
	既存 屋根	石綿なし			重ね葺き仕様			
		石綿あり			『あんしん』屋根カバー工法(多雪)		『あんしん』屋根カバー工法(一般)	

下葺材の施工方法については「下葺材の施工」(P218～221)をご参照ください。

9 アルマの重ね葺き工法

9-4 施工前の確認事項

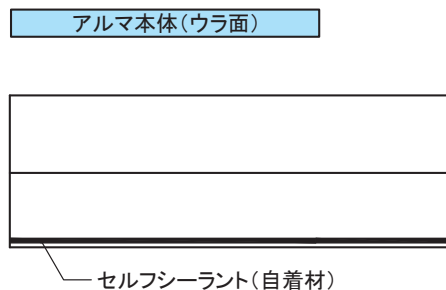
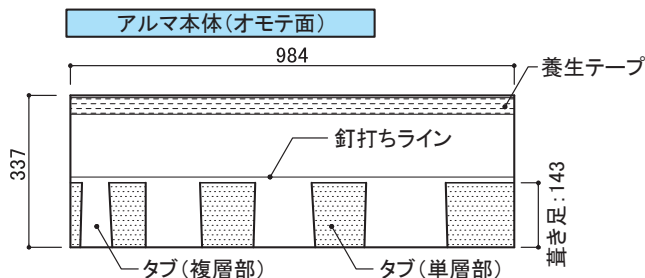
2) 事前調査

- 既存状態で漏水がある場合は、どこから漏水しているか水の浸入箇所を突き止め、確実な防水処理を行ってください。
- 既存屋根の実測を行い、勾配、流れ長さなどが「設計施工基準」に適合することをご確認ください。
- 既存屋根材の状態をご確認ください。脱落などがある場合は段差を埋めるなど適切な処置を行ってから施工してください。
- 片面粘着層付き下葺材を使用する場合、粘着層の接着確保のため、既存屋根面の塵埃、苔を落としてから下葺材を施工してください。
- 太陽光発電パネル、温水器など既存屋根上に設置物がある場合は、必ず専門工事業者様に配線、脱着工事などを相談してください。

9 アルマの重ね葺き工法

9-5 製品仕様

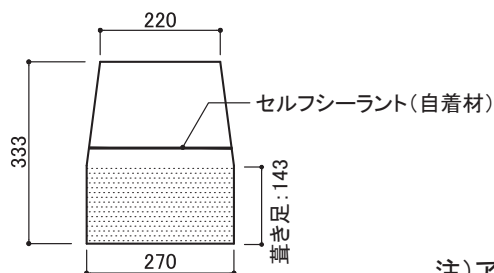
■アルマ本体



寸法	厚み	6mm(単層部3mm)
	幅	337mm
	長さ	984mm
葺き足		143mm

m ² あたり葺き枚数	約7枚
梱包枚数	16枚
重量	約1.7kg/枚
梱包重量	約27kg

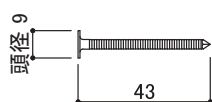
■アルマ同質棟材



品番	SAH21□ (□内は色番号)	
寸法	厚み	3mm
	幅	270mm
	長さ	333mm
葺き足		143mm
梱包枚数	30枚	
梱包あたり施工長さ	約4.3m	

注)アルマ同質棟材の対応勾配は10寸(45度)以下です。

■アルマ重ね葺き用連結釘(アルマ本体機械打ち施工用)



φ3mm×43mm
120本/巻
ワイヤ連結
ステンレス製

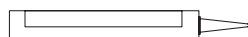
品番	SAR110
梱包入り数	30巻
巻あたり施工枚数	約30枚(一般地域施工)
梱包あたり施工枚数	約900枚(一般地域施工)

●連結釘の施工には専用の釘打ち機が必要です。

推奨機種については弊社営業所までお問い合わせください。

アルマ同質棟材用シングル釘(品番:SAK110)を使用した手打ち施工も可能です。

■アルマ用シングルセメント



330ml
カートリッジ

品番	SAC1500
梱包入り数	10本
本あたり施工面積	約6m ² (葺き面積)
梱包あたり施工面積	約60m ² (葺き面積)

●アルマ用シングルセメントはアルマ施工の際には必ず使用してください。

●アルマ本体施工に際して、直径20～30mmの点づけにて使用してください。

●使用部分により、幅5～10mmのビード状で塗布してください。

●シングルセメントの塗りすぎはアルマ本体の膨れ、変形、汚れなどの原因となりますのでご注意ください。

9 アルマの重ね葺き工法

9-6 下葺材の施工

重ね葺き仕様（既存屋根が石綿を含まない場合）

1) 重ね葺き仕様：既存屋根が石綿を含まない場合

本下葺材施工仕様は既存屋根材が石綿を含まないセメント系新生瓦、アスファルトシングルの際に適用されます。

【使用する下葺材】

片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング：厚1.0mm以上

※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

一般部 ●重ね代は、上下100mm以上、左右200mm以上とします。	軒先・けらば部 ●既存けらば水切の上にのぼり木を設置し、下葺材を立ち上げます。
大棟部 ●大棟部は、片側250mm以上（両側二重で500mm以上）重ねます。	隅棟部 ●隅棟部は、屋根面より250mm以上延長して下葺材を敷き延ばして施工した後、幅500mm以上のシートを隅棟芯に沿って施工します。
谷部 ●谷部は、 ①谷芯を中心に下葺材を捨て張りし、 ②、③その後、両側から谷芯より250mm以上敷き延ばして施工します。 （図中の○数字は、施工の順番を表しています。）	

※既存屋根材がアスファルトシングルの場合、既存屋根材の表面状態により、十分な接着が得られない場合があるため、必要に応じて板金、釘などを用いて下葺材を仮留めします。

9 アルマの重ね葺き工法

9-6 下葺材の施工

ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(既存屋根が石綿を含む場合)

2)ニチハ『あんしん』屋根カバー工法

ニチハ『あんしん』屋根カバー工法は、石綿(アスベスト)を含んだセメント系新生瓦の上に重ね葺き工法により屋根材を施工する際、片面粘着層の付いていない下葺材を使用することにより、将来的な建物の解体時の廃棄物(石綿含有建材)分離処分をしやすいものです。

下葺材の固定には「耐力面材『あんしん』壁倍率5.0用めっき鋼板」、または30×30mm以上の鋼板(現場調達)を使用し、重ね葺き専用釘で留め付けます。

●下葺材留め付け補助部材

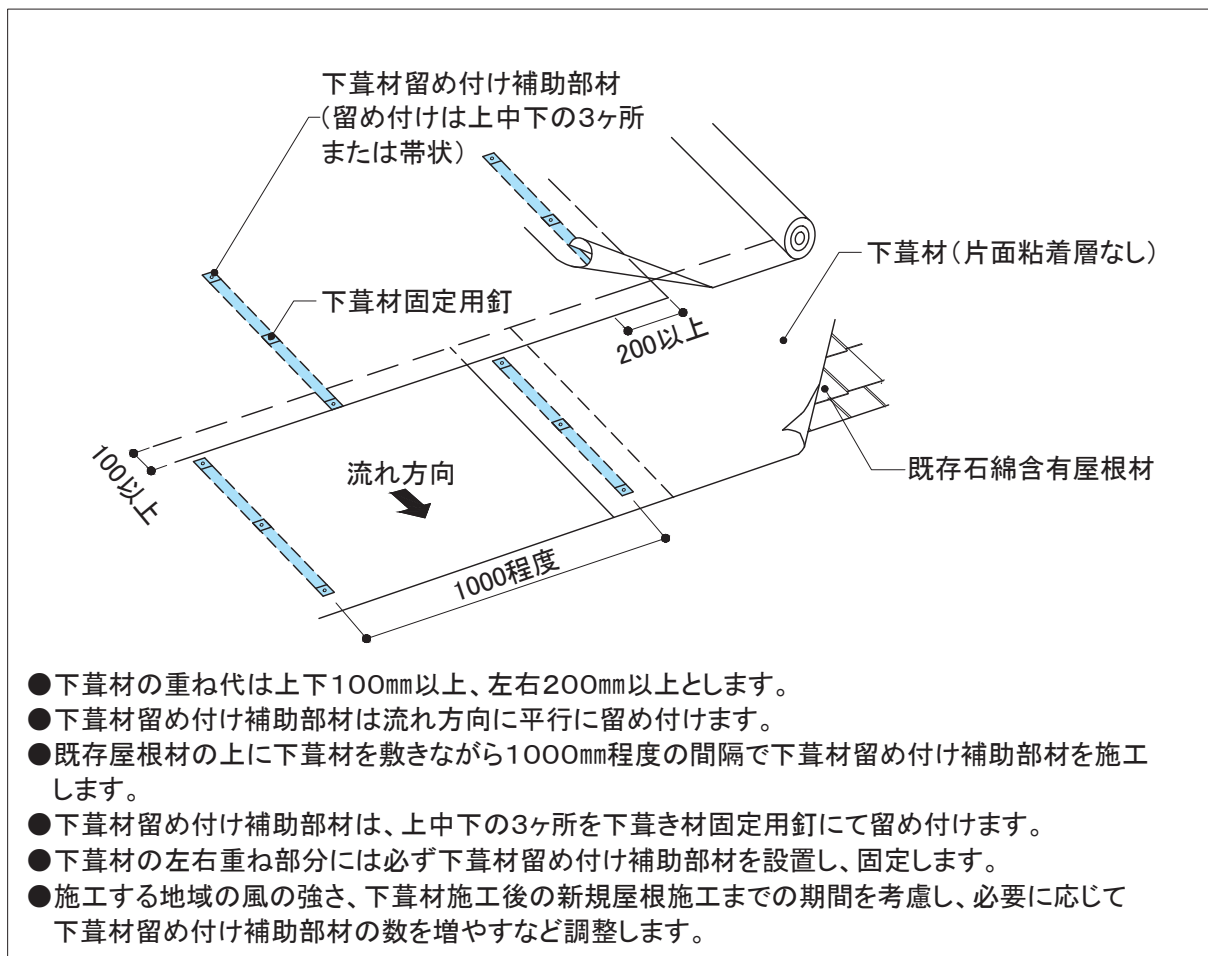
- ・外周部めっき鋼板(あんしん壁倍率5.0用)(品番:FA4000、サイズ:0.35×30×855mm)
- ・30×30mm以上の鋼板(現場調達)

●下葺材固定用釘

- ・アルマ重ね葺き用連結釘(品番:SAR110、サイズ:φ3mm×43mm)

【使用する下葺材】

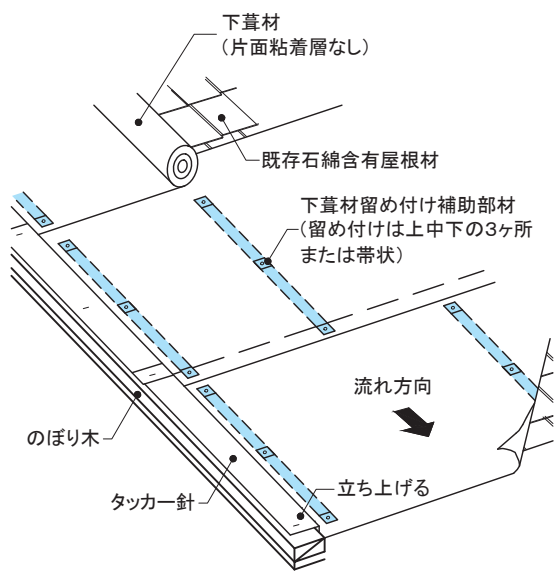
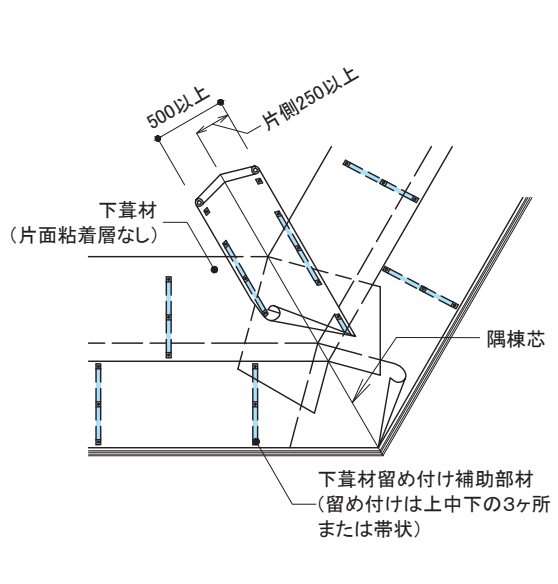
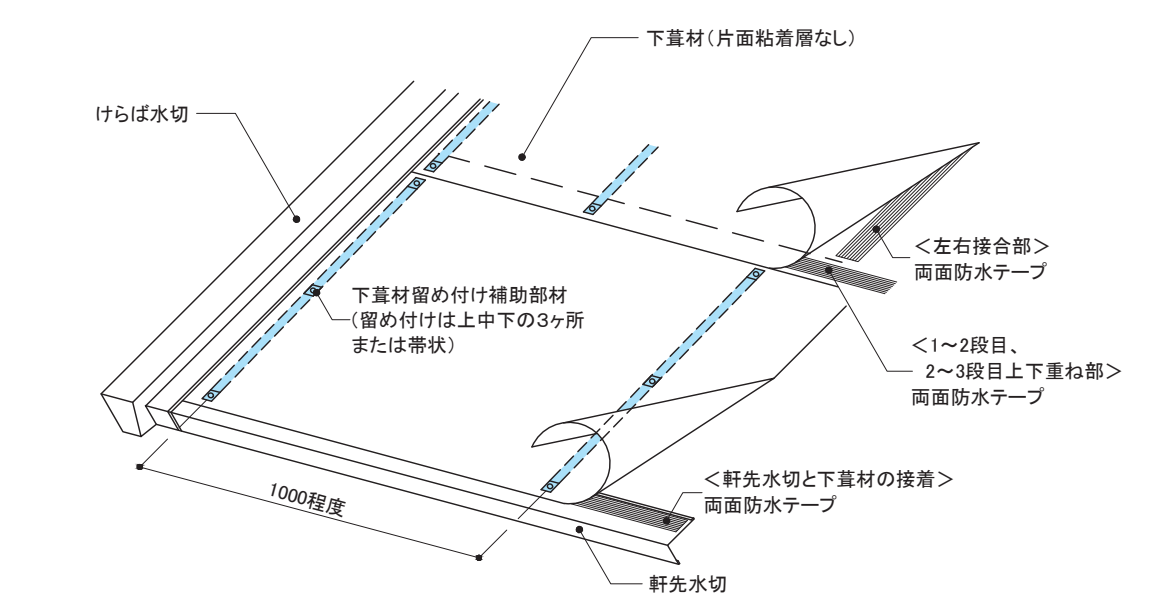
アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)、改質アスファルトルーフィング(ゴムアス):厚1.0mm以上



9 アルマの重ね葺き工法

9-6 下葺材の施工

ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(既存屋根が石綿を含む場合)

けらば部	隅棟部
 ●けらば端部は全段下葺材を下葺材留め付け補助部材で固定します。 ●のぼり木に対してはタッカー針で固定します。	 ●隅棟部に重ねる下葺材端部に、下葺材留め付け補助部材を隅棟芯に沿って固定します。
緩勾配(2.5寸以上3.5寸未満)	
 ●緩勾配屋根の場合は軒先水切と下葺材の間に両面防水テープを貼り付け、下葺材を固定します。 ●下葺材の重ね代は上下100mm以上、左右200mm以上とします。 ●下葺材の上下重ね部分、左右重ね部分は全段両面防水テープにて下葺材どうしを接着します。 ●左右(桁方向)重ね部分は上下段で2000mm以上ずらします。	

9 アルマの重ね葺き工法

9-6 下葺材の施工

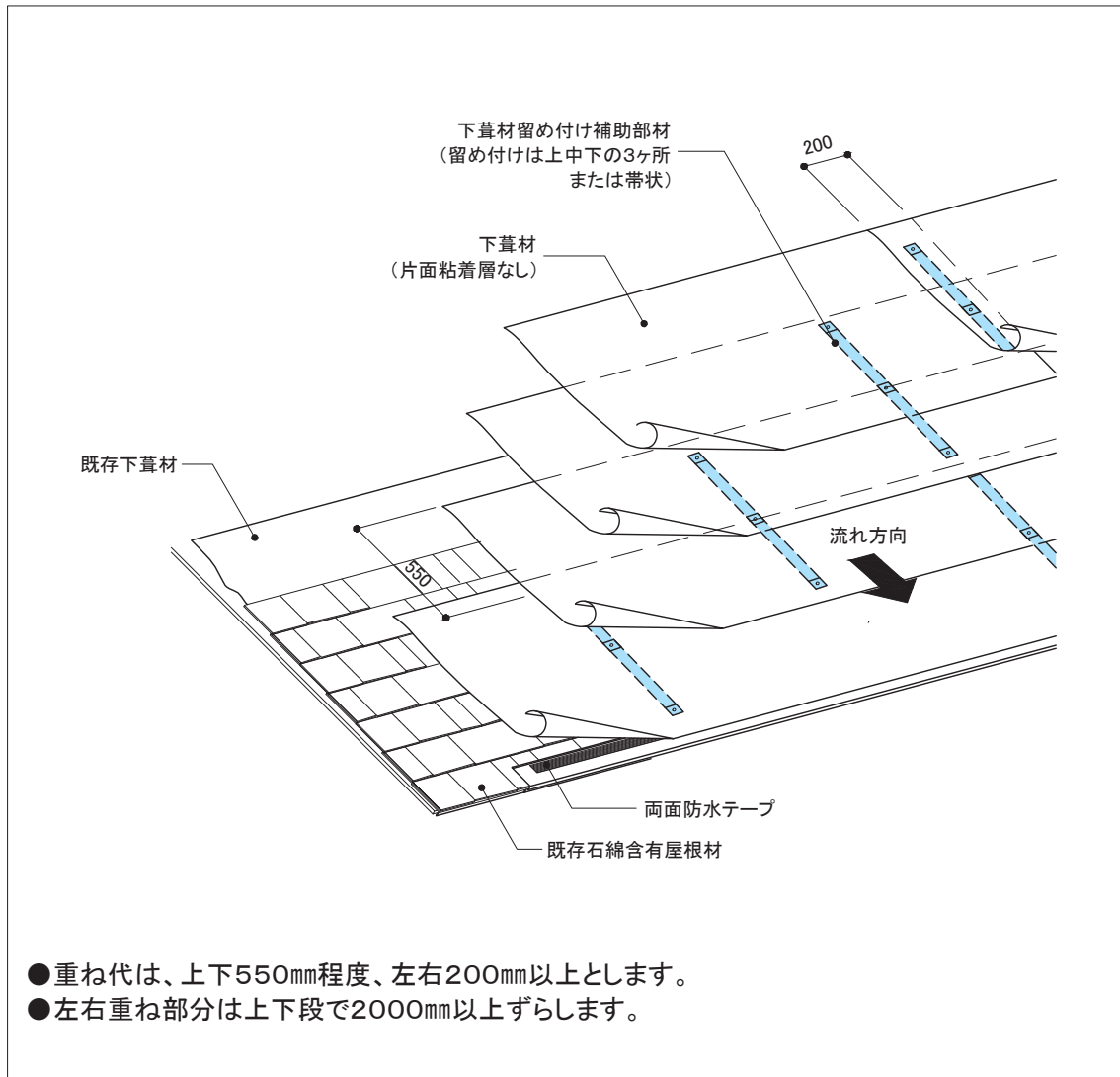
ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(多雪)
(既存屋根が石綿を含む場合)

3)ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(多雪)

- 本下葺材施工仕様は既存屋根材が石綿(アスベスト)を含むセメント系新生瓦への重ね葺き工法で、「積雪A地域」における「屋根勾配3.5寸以上5.0寸未満」の屋根に適用されます。
- 「積雪A地域」においては、板金役物の接合部には必ずシーリング処理を行います。
また、谷、けらばなど板金役物とアルマとの取り合い部にはシングルセメントを捨て打ちします。

【使用する下葺材】

アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)、改質アスファルトルーフィング(ゴムアス):厚1.0mm以上



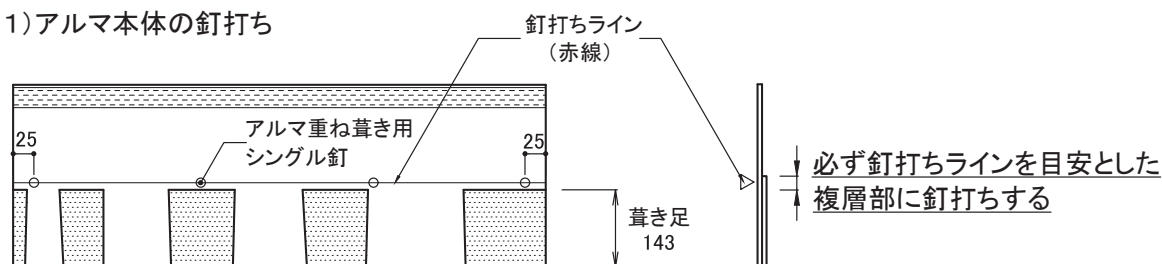
※既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。

※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を上記に記載します。

9 アルマの重ね葺き工法

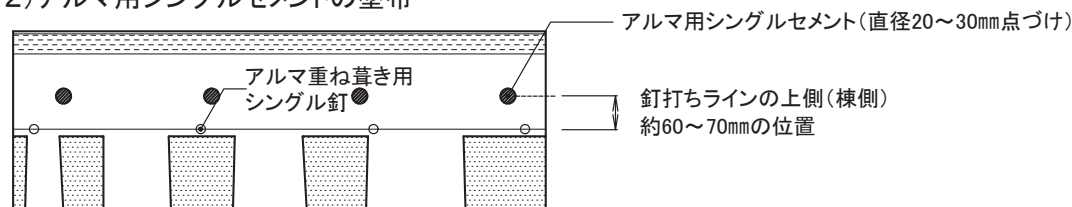
9-7 本体施工時のポイント

1) アルマ本体の釘打ち



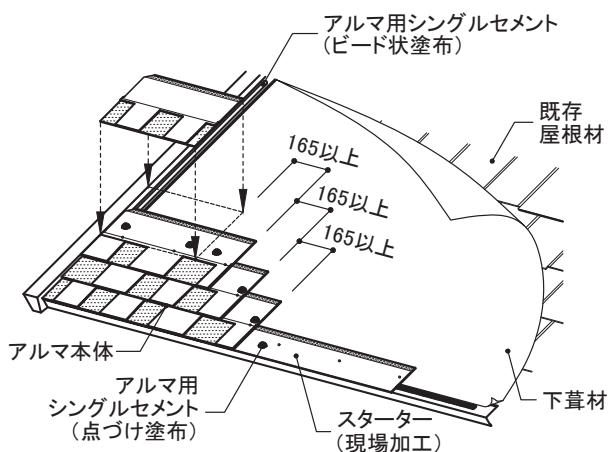
- アルマ本体への釘打ちは必ず釘打ちライン(赤線)を目安とした複層部に行います。
- アルマ本体1枚につき、シングル釘4本(強風地域は6本)で均等に留め付けます。なお、製品端部への釘打ちは端から25mm程度の位置で行います。

2) アルマ用シングルセメントの塗布

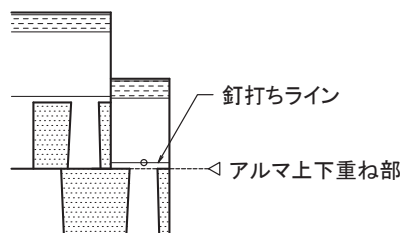


- アルマ用シングルセメントは釘打ちラインの上側(棟側)60~70mmの位置に、アルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度塗布します。
- アルマ用シングルセメントは直径20~30mmの大きさに点づけにて塗布します。
- 軒先部やけらば部などでビード状に塗布する場合は幅5~10mmとします。
- シングルセメントの塗りすぎは膨れ、変形、汚れの原因となりますので塗布量には十分注意してください。

3) アルマ本体の施工

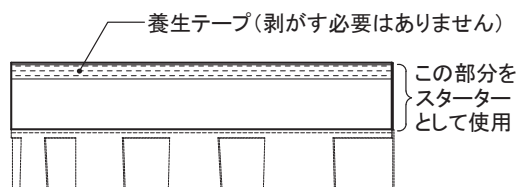


- アルマ本体施工の際、左右の継ぎ目が下段の継ぎ目と165mm以上ずれるように施工します。
- 左右の継ぎ目は突き付け施工となりますが、詰めすぎに注意してください。
- アルマ本体の上下重ねは下段本体凹部上端にあわせ、釘頭が完全に隠れるように施工します。
注) 釘打ちラインあわせではありません。



※複層シングルへ重ね葺きする場合のみ、段差解消のため、葺き始め2段目のアルマの葺き足を半分程度とします。

4) スターターの加工



- アルマ本体の下部複層部分を切り落とした上部単層部分をスターターとして使用します。
- 葺き始めスターターは1段目のアルマ本体と左右継ぎ目があわないように165mm以上切断します。
- スターター施工の際は、養生テープを上側(棟側)にして施工します。

9-8 納まり詳細図

アルマ

重ね葺き工法

直葺き施工

1) 軒先部	①既存屋根: セメント系新生瓦、 アスファルトシングル(単層) ②既存屋根: セメント系新生瓦、 アスファルトシングル(複層)
2) けらば部	
3) 大棟部	①板金仕様 ②同質棟材仕様
4) 隅棟部	①板金仕様 ②同質棟材仕様
5) 谷部	板金仕様
6) 壁際部	

本章は、基本的な納まり例を記載していますので、注意事項、禁止事項をご理解いただいたうえで施工してください。

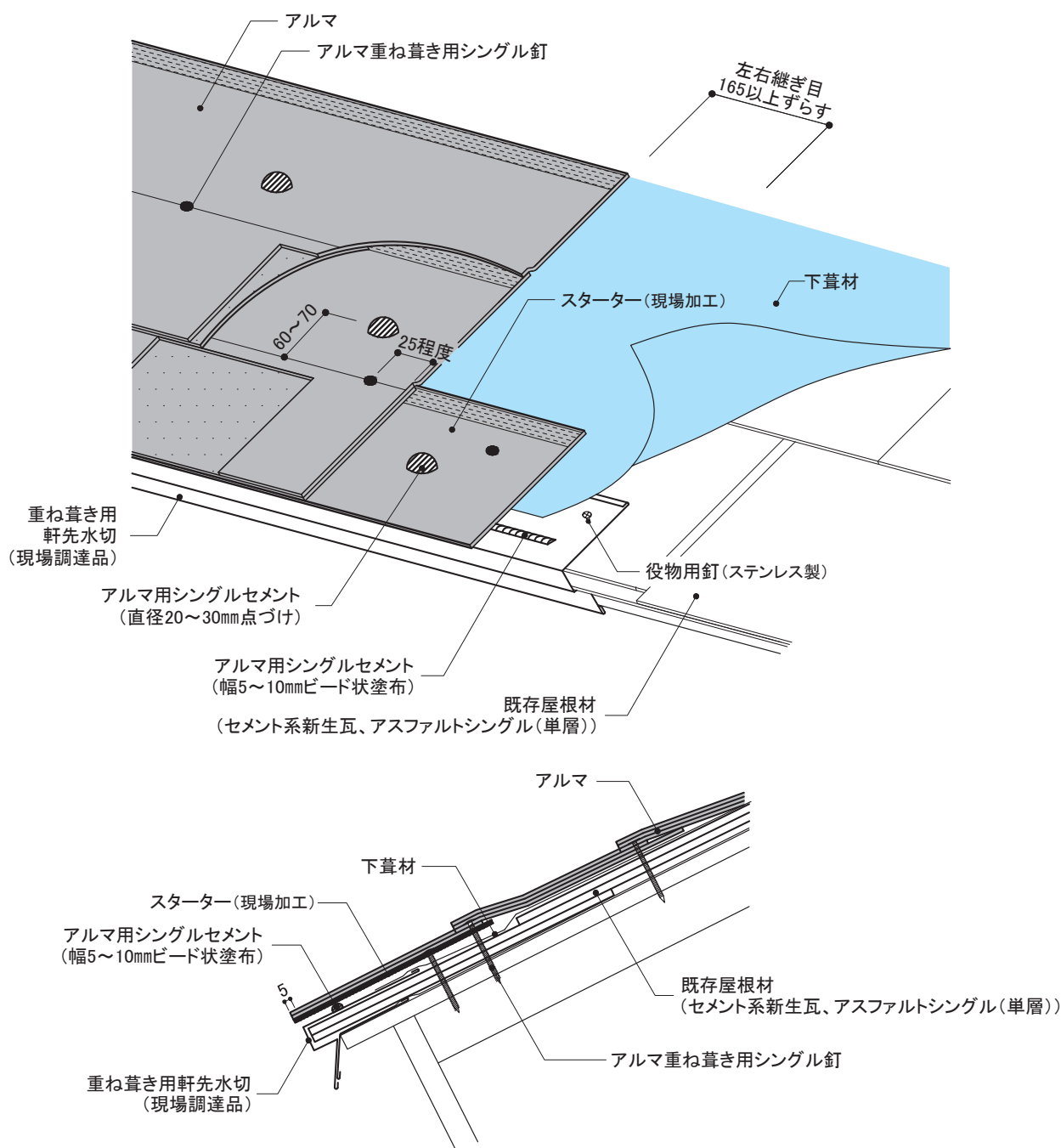
アスファルトシングル アルマ

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル(単層)

1) 軒先部

①既存屋根:
セメント系新生瓦、アスファルトシングル(単層)

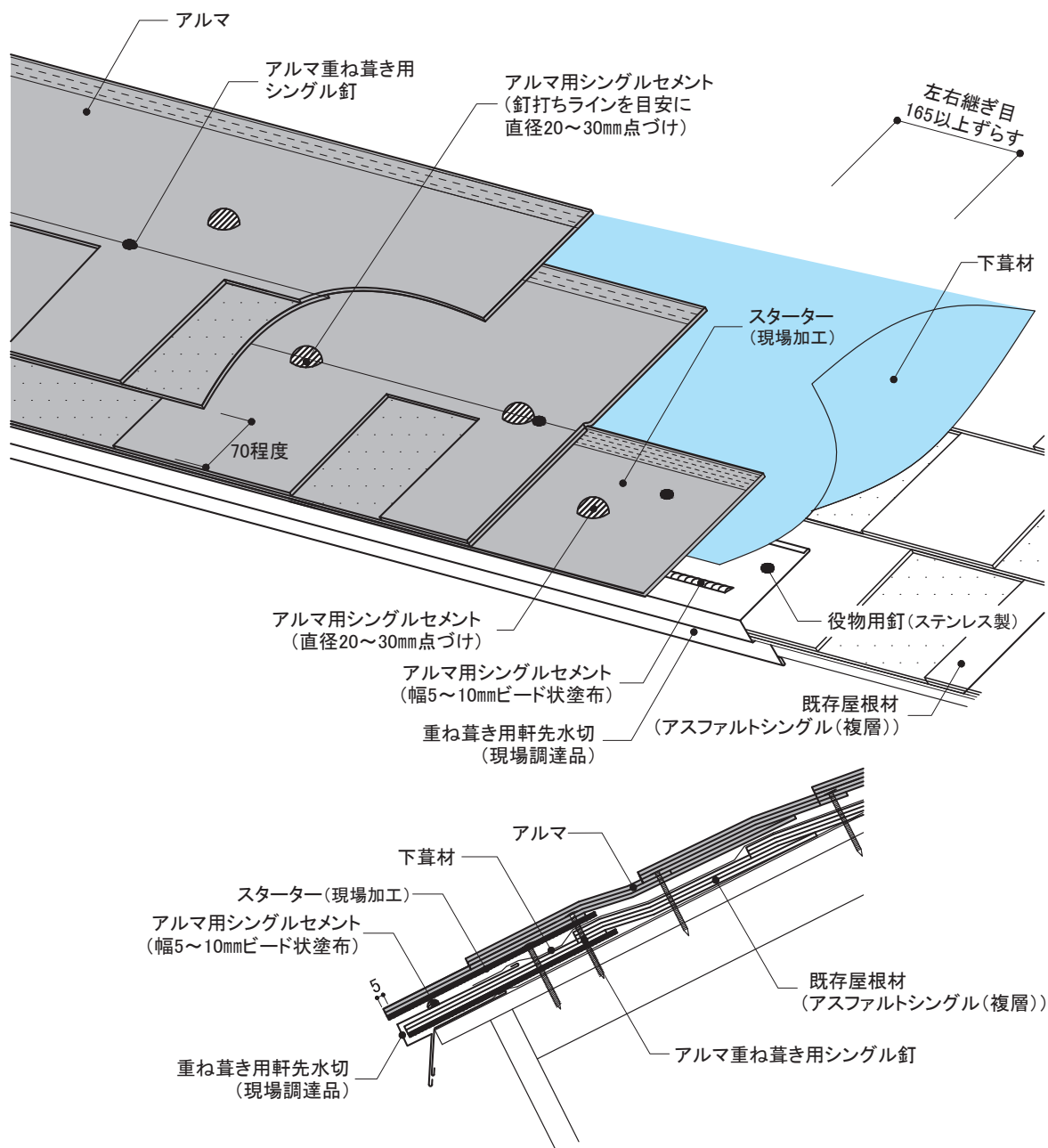
- 既存屋根と既存樋との位置関係を確認し、必要に応じて既存屋根材の軒先を切断します。
- スターターおよび1段目のアルマは、軒先水切先端より5mm程度持ち出して施工します。
- スターター施工時に、留付釘が軒先水切を貫通しないように留意してください。
- スターターの中段あたりにアルマ用シングルセメントを1枚につき4ヶ所程度、直径20～30mmの大きさに点づけします。
- アルマ用シングルセメントはアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度、釘打ちラインより60～70mm上側(棟側)に点づけします。
- スターターの左右継ぎ目と1段目アルマ本体の左右継ぎ目は、165mm以上ずらして施工します。



1) 軒先部

②既存屋根材:
アスファルトシングル(複層)

- 既存屋根と既存樋との位置関係を確認し、必要に応じて既存屋根材の軒先を切断します。
- スターターおよび1段目のアルマは、軒先水切先端より5mm程度持ち出して施工します。
- スターター施工時に留付釘が軒先水切を貫通しないように留意してください。
- スターターの中段あたりにアルマ用シングルセメントを1枚につき4ヶ所程度、直径20～30mmの大きさに点づけします。
- スターターの左右継ぎ目と1段目アルマ本体の左右継ぎ目は、165mm以上ずらして施工します。
- 1段目のアルマの釘打ちラインを目安に、アルマ用シングルセメントを本体定尺品1枚につき4ヶ所程度点づけします。
- 2段目のアルマは、1段目のアルマの軒先側先端より70mmの位置に施工します。
- 2段目以降は、アルマ用シングルセメントをアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度、釘打ちラインより60～70mm上側(棟側)に点づけします。



アスファルトシングル
アルマ

工法

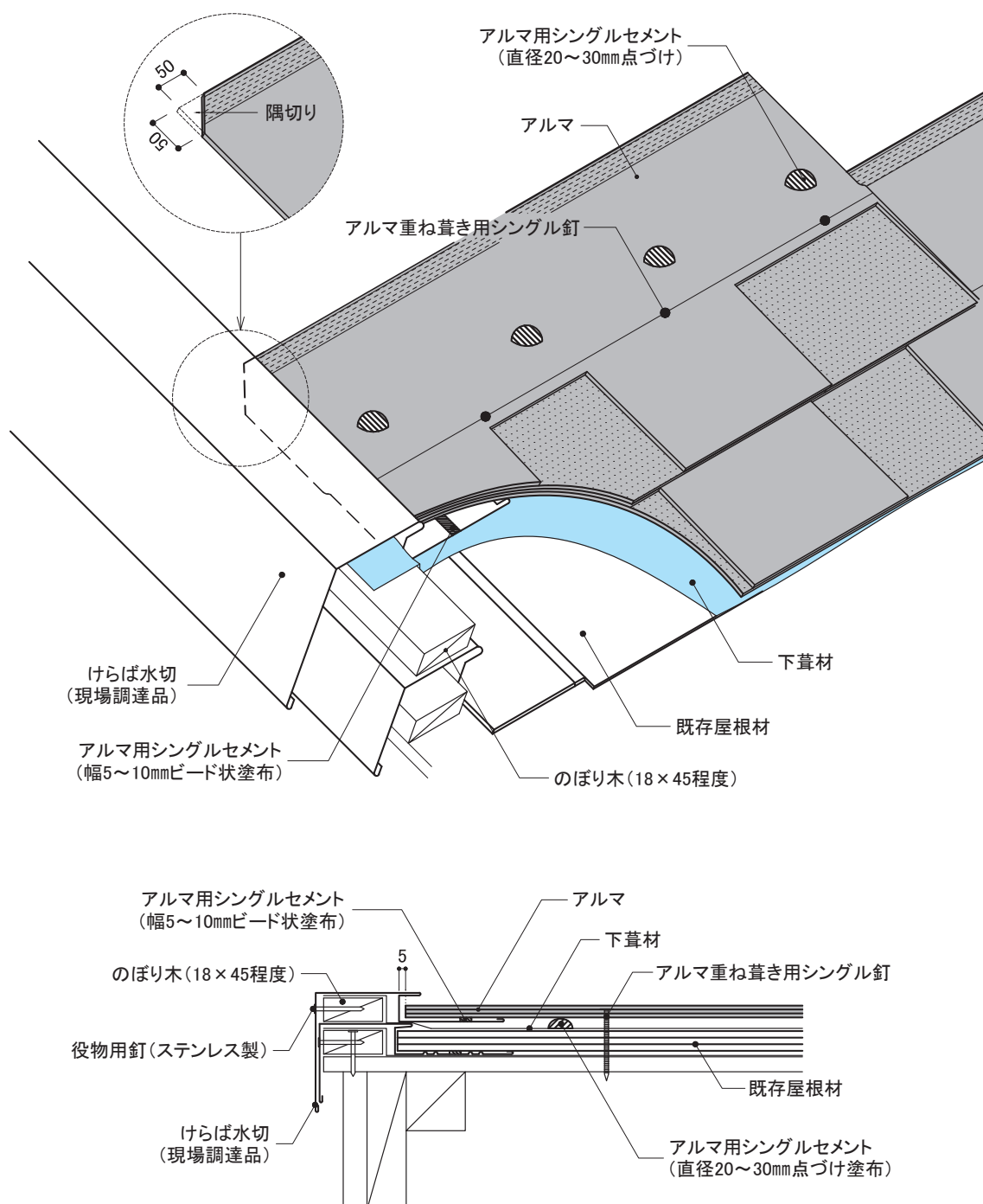
重ね葺き

既存屋根材

セメント系新生瓦
アスファルトシングル

2) けらば部

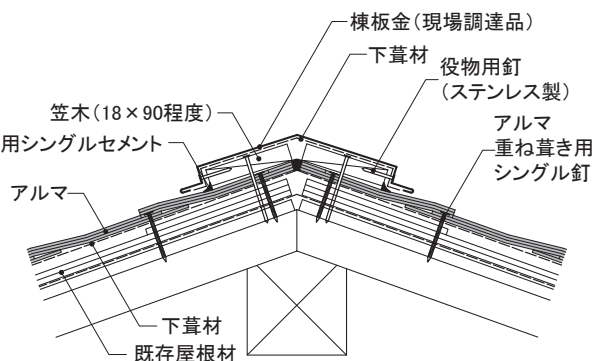
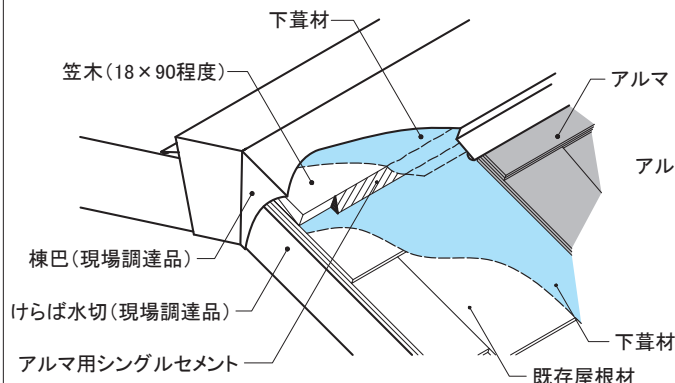
- けらば水切にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。
- けらば水切とアルマは、5mm程度の隙間を設けて施工します。
- けらば部のアルマは、幅50mm程度隅切りします。
- アルマ本体留め付けの際、シングル釘がけらば水切を貫通しないように留意してください。



3) 大棟部

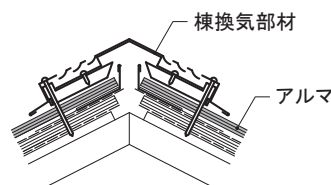
① 板金仕様

- 最上段のアルマ本体は葺き足長さを短く調整するなどして葺き、釘頭があらわしにならないように施工します。
- 笠木とアルマの取り合い部にアルマ用シングルセメントを塗布します。



施工上の注意

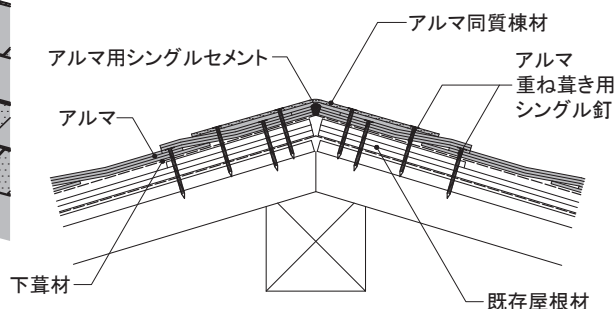
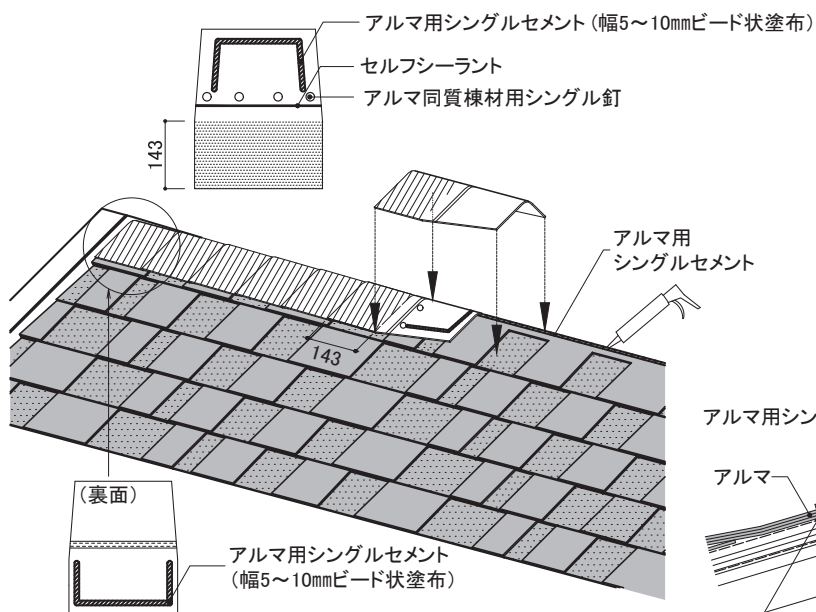
アルマの施工では小屋裏換気を標準としております。
既存建物の小屋裏換気の状態から、必要に応じて棟換気部材を設置してください。
なお、換気棟セットにつきましては、株式会社ヨネキンのシングル用棟換気部材を推奨いたします。



3) 大棟部

② 同質棟材仕様

- 同質棟材1枚につき、アルマ同質棟材用シングル釘 (φ3mm×43mm) 4本で施工します。
- 棟芯に沿って折り曲げる際、同質棟本体の割れを防ぐため、日なたなどで温めてから施工します。
- 同質棟材施工の前に、棟芯にシングルセメントを塗布します。
- 同質棟材の重なり部分には、下図のようにシングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。
- 1段目の同質棟材は、裏面にシングルセメントを幅5～10mm幅のビード状に塗布します。



アスファルトシングル アルマ

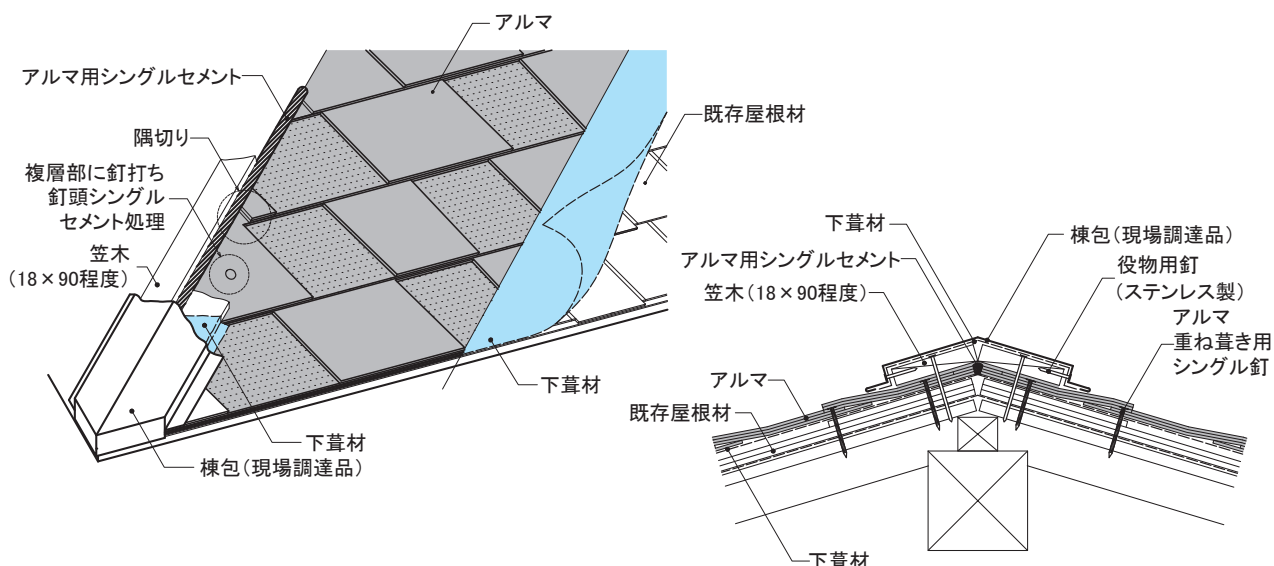
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

4) 隅棟部

① 板金仕様

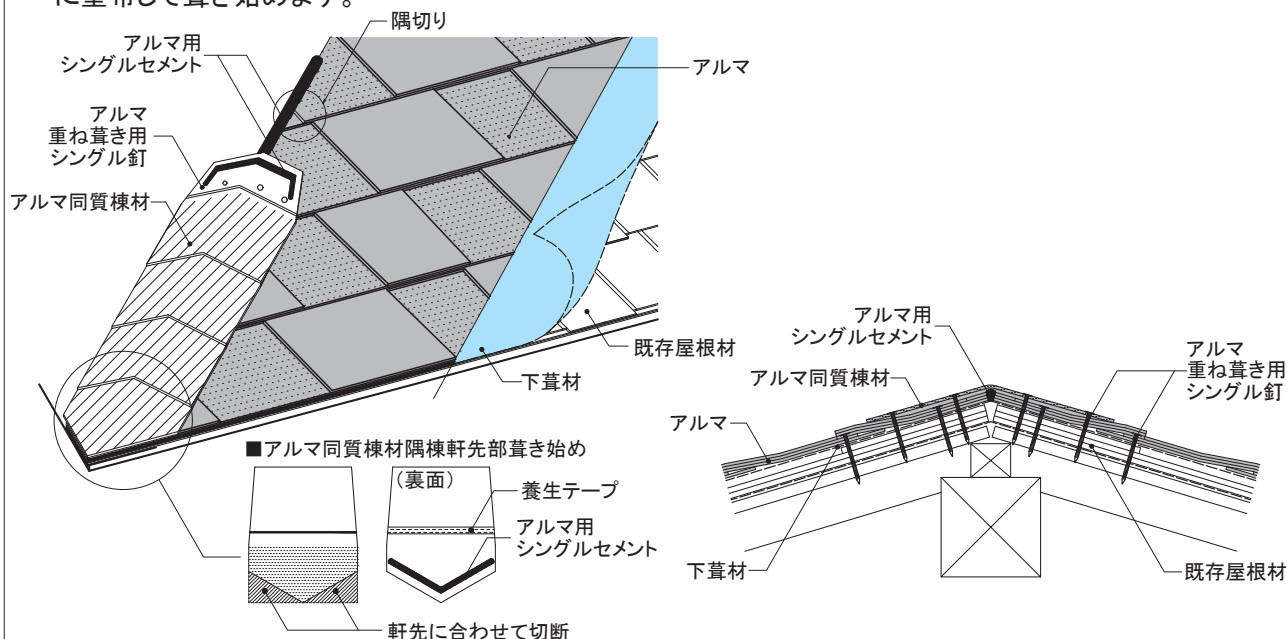
- 隅棟芯に沿ってシングルセメントを塗布します。
- 隅棟端部のアルマ本体は50mm程度隅切りします。
- 隅棟芯際は釘打ちライン上に釘を打てないため、本体複層部分の棟包で隠れる場所に釘打ちし、釘頭をアルマ用シングルセメントで処理します。



4) 隅棟部

② 同質棟材仕様

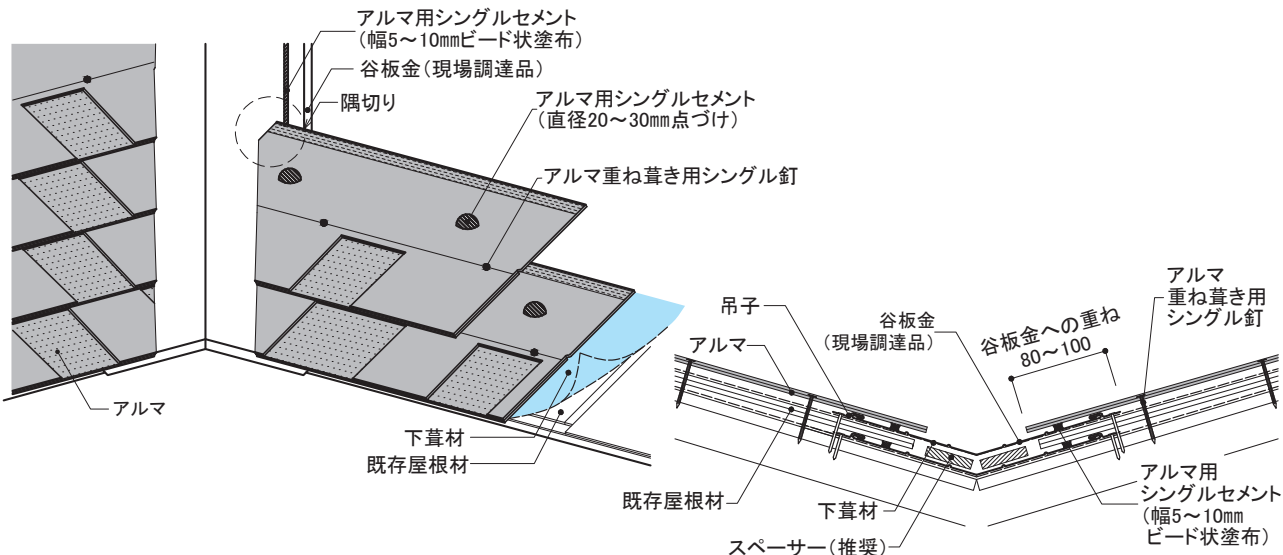
- 隅棟芯に沿ってシングルセメントを塗布します。
- 隅棟端部のアルマ本体は50mm程度隅切りします。
- 隅棟芯際は釘打ちライン上に釘を打てないため、本体の複層部分で同質棟材で隠れる場所に釘打ちし、釘頭をアルマ用シングルセメントで処理します。
- 軒先スタート部は軒先角度に合わせて切断し、裏面にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布して葺き始めます。



5) 谷部

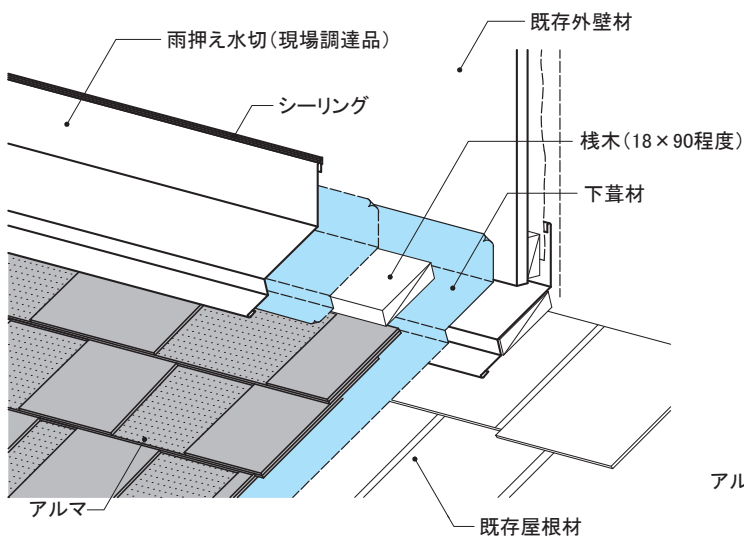
板金仕様

- 谷板金は直接釘で留め付けず、必ず吊子で取り付けます。
- アルマを谷板金に80～100mm重ねて施工します。
- 谷部にかかるアルマの上部角は50mm程度隅切りします。
- アルマ本体留め付けの際、釘が谷板金を貫通しないように留意してください。
- 谷板金にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布し、アルマ本体と接着します。
- 既存谷板金との段差解消のため、必要に応じて10～15mm厚のスペーサーを挿入します。

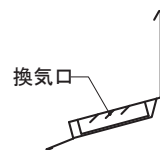


6) 壁際部

- 既存雨押え水切の上に桟木を設置し、アルマを施工後、新規に雨押え水切を設置します。
- 桟木を覆うように下葦材を増し張りします。
- 雨押え水切上部にはシーリングを充填し、止水処理を行います。
- 既存外壁材に通気が必要な場合、既存雨押え水切にアルマを差し込んだり、雨押え換気部材を使用するなど、既存外壁材の通気を阻害しない措置を講じてください。



■ 雨押え換気部材 (現場調達品)



既存外壁材に通気が必要な際に使用
※流れ側には使用しないでください。

